



# 乳幼児への 図書館サービス ガイドライン

Guidelines for Library Services to Babies and Toddlers

国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会 編  
日本図書館協会児童青少年委員会 訳

日本図書館協会

## **Guidelines for Library Services to Babies and Toddlers**

International Federation of Library Associations and Institutions

IFLA Professional Report 100

IFLA 乳幼児への図書館サービスガイドライン / 国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会編 ; 日本図書館協会児童青少年委員会訳. - 東京 : 日本図書館協会, 2009. - 42p ; 21cm. - Guidelines for Library Services to Babies and Toddlers の翻訳. - ISBN978-4-8204-0901-4

t1. イフラ ニュウヨウジ エノ トショカン サービス ガイドライン  
a1. コクサイ トショカン レンメイ a2. ニホン トショカン キョウカイ  
s1. 児童図書館 s2. 乳児 s3. 幼児 ① 016.28

このガイドラインはIFLA 第三部会：公共・学校図書館部会の全分科会による共同プロジェクト（2006－2007）として作成し、児童・ヤングアダルト図書館分科会がまとめたものである。

第三部会を構成する分科会は次のとおり：

公共図書館

障害者サービス図書館

児童・ヤングアダルト図書館

学校図書館・リソースセンター

盲人図書館

多文化社会図書館サービス

大都市図書館

このガイドラインの作成・編集については、以下の方々にご尽力いただいた。

キャシー・イースト氏（アメリカ合衆国オハイオ州ウッド郡地区公立図書館）、イヴァンカ・ストリセヴィッチ氏（クロアチア，ザグレブ，ザグレブ市立図書館，メドヴェシュチアク公立図書館）



# 目次

第1節	7
はじめに	7
目的	8
対象	8
第2節	9
児童図書館の使命	9
3歳未満の子どもをもつ家族の潜在的な要求への対応	10
サービス対象	10
乳幼児への図書館サービスの目標	11
各種サービス	12
資料と選書規準	14
図書館内の環境	15
地域との連携	15
広報	16
人材	17
運営と評価	17
財源確保	18
第3節	19
チェックリスト	
第4節	26
優れた事例	
日本語版あとがき	42



## 第1節

---

このガイドラインは、乳幼児<sup>1, 2</sup>やその家族、乳幼児の教育やサービスに携わっている機関への図書館サービスに焦点を当てたものである。

### はじめに

国際連合は、1989年の年次総会で、「すべての子どもは自己の能力を最大限に発展させる権利を有し、人種、性別、宗教、国籍、文化的背景、言語、社会的身分、個人の技能・能力にかかわらず、平等な条件のもとに、情報・資料・プログラム等に自由かつ無償でアクセスする権利を有する」と宣言している。

乳幼児にとって図書館サービスを受けられるかどうかは重大な問題である。脳の初期段階での発達の研究によれば、話しかけたり、歌ってあげたり、読み聞かせたりすることが、乳幼児の言語習得に多大な影響を与えることが明らかになっている。子どもを取り巻く環境は、読書期前の能力の発達に著しい影響を及ぼす。読書を促す環境としては、＜読むもの＞が身近にあることが必要である。世界中のすべての家族が、地元の図書館からサービスを受けることが望まれる。幼い頃から図書館に慣れ親しめば、図書館が居心地のよいところであって、手助けを求めることができ、情報資源や技術について学べる場所であるとわかる。バイリンガルなど特別な配慮が必要な子どもたちにとって、図書館サービスを早くから利用することはなお一層重要で、そのような経験は就学前のよい準備となる。

## 目的

このガイドラインは、世界各国の公共図書館が質の高い児童サービスを提供できるよう支援することを目的とし、乳幼児をかかえる家族へのサービスに責任を持つ新人からベテランまで、すべての図書館員の手引きとなるものである。また、若い利用者たちに向けられたガイドラインであることを考えると、「子ども一人を育てるには村中みんなの力が必要」というアフリカの諺の精神を引き継ぐものでもある。

## 対象

このガイドラインは、現役の図書館員、図書館管理者、ならびに政策決定者、図書館・情報学養成課程の学生と指導者たちを対象としている。

---

<sup>1</sup> 乳児：生後 12 か月までの子ども。

<sup>2</sup> 幼児：生後 12 か月から 3 歳までの子ども。



## 第2節

---

### 児童図書館の使命

「公共図書館は、広範囲にわたる資料を提供し多様な活動を展開することにより、子どもたちに対して読書の喜びや知識と想像力にあふれる諸作品を見つけ出したときの興奮を実感する機会を提供する。子どもたちとその親には、図書館の上手な利用のしかた、そして印刷資料と電子メディアの利用に関するスキルをどのようにして身につけるかを教えなければならない。……子どもたちは早い時期から図書館の利用を奨励されるべきである。というのは、そうすることによって、彼らが将来も図書館の利用者であり続けるだろうからである。」（『理想の公共図書館サービスのために：IFLA/UNESCOガイドライン』2001 より）

公共図書館は、幅広い図書館資料や諸活動を通して、快く迎えられる場所、それぞれに適した資料が豊富な場所、年齢にあった詩や歌、ボードブックやさわる絵本にふれる喜びを味わう機会を乳幼児とその保護者に提供する。図書館を利用する人々の一員になることは、好奇心や想像力に刺激を受ける初めての社会的経験となる。知育玩具、パズル、楽しさ溢れる本などにより「子どもとその保護者」の間に理解が生まれ、これが後には「子どもと本」との関係を育てることにつながっていく。

文字が身近にある環境というのは読書への足がかりを醸成し、次のステップである書くことにもつながっていく。また、人生の早い時点で前向きな体験をすることは、生涯にわたる読書への関心を芽生えさせ、読み書き能力を磨くよい機会ともなる。

### 3 歳未満の子どもをもつ家族の潜在的な要求への対応

家庭での学習と生涯学習という観点からみると、3歳未満の子どもたちがなんの制限もなく無償で公共図書館を利用できることは、人間としての本質的な権利であり、子どものその後の人生において計算と読み書き能力の発達を向上させるための重要な基盤となる。

図書館はすべての子どもたちのために存在すべきものであり、それゆえ公共図書館は障害の有無にかかわらず、すべての子どもたちに、資料とサービスを提供することが必要である。館内で開催する気楽に参加できる催し物などのサービスは、障害のある子どもたちにあわせて、子どもたちが他の図書館利用者と一緒に楽しむことができるよう企画するとよい。

バイリンガルの家族には、子どもたちや保護者と読書とのかかわりを深めるため、多言語資料や母語資料を用意することが必要である。

地方の子どもたちや、図書館サービスが受けられない地域の子どものためには、特別な配慮が必要である。移動図書館サービスや地域の施設を利用したアウトリーチプログラムが望まれる。

都市部の子どもたちとその家族には別の潜在的な要求があると考えられる。都市部では、多くの人々が、貧困、非識字などさまざまな形の窮乏状況におかれている。このような対象グループの幼い子どもたちに手を差し伸べて図書館サービスを提供することは大きな課題である。乳幼児への図書館サービスが必要なのは大都会の貧困層に限られたことではない。都市生活の犠牲者も考慮に入れなくてはならない。例えば、時間に追われる暮らしや目が回るほど膨大な仕事量で憔悴している親たち、また、旧来の家族形態から孤立した親たちへの対応もまた考慮すべき典型的な課題なのである。

### サービス対象

幼い子どもたちが、本、新しい科学技術、また図書館サービスに接するに

は、親や保育者の手助けが必要である。親たちが子どもとともに図書館に来ると、図書館にとっては、親たちの潜在的要求の把握もできる上、親たちに読書・本・マルチメディア、ならびに図書館が子どもの発達に重要であると気づいてもらう絶好の機会をもたらすこともできる。

乳幼児サービスを進展し、提供する対象グループは次のとおりである：

- ・乳幼児（3歳未満）
- ・両親や家族
- ・養育者
- ・保育者：例；子どもの世話をする人、保育所スタッフ
- ・教育者
- ・医療専門家
- ・その他、子ども、本、メディアに携わる大人

## 乳幼児への図書館サービスの目標

- ・保育者や幼い子どもたちにかかわる仕事をする大人と同様、乳幼児と親や家族のために、おもちゃ・本・マルチメディアや情報資源などが揃った環境を、すべての乳幼児が享受できる権利を整備する
- ・読書や本への愛を育むために、本がたくさんある環境を創り出す
- ・マルチメディアを扱う能力やテクノロジーを使う力を早い時期から身につける機会を与える
- ・さまざまな文化に触れられる資料を提供する
- ・乳幼児の言語発達を促す
- ・言語能力およびバイリンガル能力を発達させる：特に言語的・民族的少数派に配慮する
- ・子どもの言語・読解能力の発達に読書・読み聞かせが重要であることを両親等に知らせる：特に言語的・民族的少数派に配慮する
- ・両親や保育者に対して、子どもの発達と読書期前の能力向上に期するため

- に、読み聞かせ、本やその他の資料の使い方、育児について講習を行う
- ・両親や保育者に対して、公共図書館で利用できる子どもの年齢相応の資料の選び方について講習を行う
  - ・「お話」を活用して、子どもとその両親と保育者がほかの家族や異なる文化に触れる機会をつくる
  - ・楽しく図書館に通う習慣をつけ、生涯にわたる読み書き能力を培う
  - ・乳幼児をかかえる家族や保育・教育に携わる人々を現在および将来にわたって支援、指導する
  - ・子どもたちとその世話をする人たちが集まり、ともに過ごし交流できる場所を提供する
  - ・子どもたちとその家族を温かく迎え入れる安全な場所を提供する

## 各種サービス

児童図書館サービスは大人を対象とした図書館サービスと同様に重要であるため、同レベルのサービスを提供することが望ましい。児童図書館は乳幼児の探究心、感覚、読み書きの要求を満たすサービスを提供しなくてはならない。

子どもの発達のごく初期の段階に、話す・聞く・読むなどの言語能力を習得させ強化することが必要である。このために次のようなサービスをいつでも利用・提供できるようにしておくことが肝要である：図書館として適度な範囲での音楽、体を使って遊べる空間、創作劇用施設、家事や簡単な科学・社会体験の場、子どもたちの親と保育者たちを対象とした資料など。児童図書館では親と保育者のために研修の機会の提供や、「作って遊ぼう」などのワークショップ等の開催が望まれる。

幼い子どもたちの言葉の発達を支援するための効果的手段としては、わらべうた、子守歌、童謡、絵本やストーリーテリングだけでなく、参加型絵本などコンピュータを使ったプログラムもある。

読み書き・計算の能力と同様に、情報通信技術（ICT）活用能力も幼い年齢で身につけることができれば、子どもの学習能力が増し、その成長過程において、また成人した後の人生においても役立つ生活適応力や職業能力が備わっていく。

保育者や養育者を対象とするのと同様に、乳幼児の親を対象としたワークショップの企画も家族教育の一環として望ましいことである。

多くの人々にとって公共図書館は最初に行く場所とは限らない。乳幼児のためのあらゆる資料を誰の手にも届くようにするためには、図書館が地域の人々のもっと身近にあることが必要である。対象となる人たちと触れ合う絶好の場所としてあげられるのは、待合室（診療所、歯科医院、病院）、家族教育センター、保育所や幼稚園の小さな絵本棚などである。保健所の職員との連携も忘れてはならない。というのも、どの国でも保健所は子どもたちの成長、体重、身体発育・言語発達等の定期健診を受けに親が必ず出向く場所だからである。言語発達には早い年齢での対応がきわめて重要であるため、図書館員はさまざまな専門家たちと連携して重点的に取り組むことが肝要である。

それだけでなく、図書館以外の場所でのストーリーテリング、読み聞かせは、幼児の読解力や言語発達の重要性を広めるためにも大変重要である。公園や待合室、あるいはスーパーマーケットでさえ、子どもたちと一緒に活動を行う場所としては理想的である。図書館で行うお話会やアウトリーチプログラムについては親たちに随時知らせるとよい。

居住している国の言語を母語としない親たちには特に配慮が必要である。こういった人たちの子どもは、バイリンガルであるか、もしくは親とまったく異なる言語を話す。このような家族にはまず言語・文化面で支援を行い、新たな環境に溶け込むようにすることが大切である。本もなく図書館員も近くにいないような場合、アウトリーチプログラムに話し言葉の発達を促すような企画を組み込むのも有効である。

## 資料と選書規準

コレクションやサービスを構築するときに、図書館員は次のような基準に従って資料を選択することが必要である：質の高いもの、年齢にふさわしいもの、乳幼児にとって安全であるもの、無理のない程度に意欲をそそるもの、親や保育者にとって注目に値するもの、公平でかつ性差別のないもの、読む気を起こさせ読後に充足感があるもの。

この年齢の子どもたちにとって絵本は特に重要である。というのも、絵本は子どもたちの発達をあらゆる面から支え、また、大人と子どもに共通の楽しい体験を与えてくれるからである。

乳児用の本は、さわる絵本など、さまざまな種類の布でできているものが望まれる。触れたり、匂いを嗅いだり、音を聞いたりできる要素を取り込んだ絵本は、障害のある子どもたちの読み書き能力の発達に重要な役割を果たす。

従来のボードブックや絵本だけでなく、目がやや不自由な子どもたちが楽しめるように、色彩対比が鮮明で柔らかい布製の本や点字付きの識字資料も必要である。各国の盲人図書館は、公共図書館を通じての貸出に対応できるよう、特別なさわる絵本や録音図書のコレクションを用意する必要がある。親が目が不自由な場合、見開きページの片面に点字、もう片面に絵がある形態の絵本も役に立つ。

多文化の地域では、公共図書館は二か国語資料や当該地域で使われているさまざまな母語の資料、また地域の多様性を反映する資料を用意しておくことよい。自分の国の文字を読むことのできない人々のためには聴覚資料が情報を提供するのに役立つ。

おもちゃを貸し出す、または館内で利用できる図書館では、おもちゃの安全性や清潔さに十分配慮する必要がある。おもちゃの安全性については各国の基準に従うことが肝要である。

親のための情報や教育資料も、図書館の所蔵資料に含めておくことが望ま

れる。

## 図書館内の環境

乳幼児とその親や保育者にとって図書館は、利用しやすく、心地よく、魅力的で、安全であり、困難や危険のない場所であってはならない。エレベータがなく階段だけとか、重いドアなど利用を妨げる障壁、さらには這ったり、よちよち歩いたりする幼児たちには危険な場所などがあってはならない。幼い子どもたちを対象としたサービスのためには、児童用エリア内に専用エリアを設けることが理想である。発育を促すおもちゃ、子どもの体に合わせた家具、または床で遊ぶための清潔な敷物か床面、図書館内またはごく近くに設置した適切なトイレやおむつ交換台など、この年齢層の世話をするのに必要な衛生設備も必要である。親のためには、授乳または哺乳瓶を使用できる部屋なども考慮したほうがよい。

子ども用だけでなく大人のための居場所も用意する必要がある。このような設備があれば、乳幼児とその親または保育者はその場所で他の家族と交流することができる。

図書館は幼い子どもたちが安全に利用できる場所であってはならない。図書館が館内の安全性をチェックし、家具や書棚の鋭利な角を防護し、コンセントにカバーをつけるなど、事故の可能性を最小限に抑えるための措置を講じるのはよいことである。おもちゃを提供する図書館では、それらが清潔で安全であることも確認する必要がある。

目の不自由な子どもとその親にとって、明るい照明で色のコントラストがはっきりしていると、周囲がはっきり見え図書館内で行動しやすくなる。

## 地域との連携

地域の多くの団体や組織が、その地域の幼い子どもたちに強い関心をもつ

て見守っている。地域に医療施設がある場合、医師、歯科医師、および乳幼児とその親の世話をする他の専門家たちは、予防処置、無料診療所、専門的情報などに関して情報交換を行うために協力関係を築くことを望んでいる。幼稚園や保育所は、施設に通うための情報や基準を提供することができる。コミュニティセンターはこの年齢層とその親、保育者および養育者のための情報やプログラムを提供することができる。在宅学習、宗教教育、音楽教育などの情報は魅力的な冊子や掲示板から入手することができる。一方図書館は、提携を結んだ施設内に、ポスター、カレンダー、しおりや図書館および読書推進に関する広報資料などを置いてもらえる。

障害をもつ子どもたちと接触するためには、図書館は地域の子ども向けのリハビリテーションを行う協会または親たちの団体と協力するとよい。図書館員は図書館を訪問するよう声をかけ、サービスや資料に関する彼らの要望について話し合うことができる。

## 広報

児童図書館が積極的な態度を表明することは、一番大切なことである。親や保育者、さらには乳幼児にかかわりのある人たちは、地域の中で図書館を、子連れで楽しめる場所、よその子どもや家族に会える場所、催しに参加する、または育児に関する講座を受講できる場所ととらえている。

広報活動は、開館時間や各種サービスの紹介を載せたちらしのような簡単なものから、図書館のサービスを宣伝するマーケティング・プログラムやウェブサイトの利用などもっと手の込んだものまでいろいろある。地域において図書館と連携しているすべての団体に広報資料を配布したいものである。充実した内容で、見た目も美しい広報・宣伝資料を積極的に活用することが大切である。情報や標識などの発信は、各地域に適した言語を用いる必要がある。



## 人材

どの図書館にも優秀な図書館員の存在は必須である。児童図書館を効率よく専門的に運営するには、専念できるベテラン児童図書館員が必要となる。そのような人材に求められるのは、子どもの発達に対応できるさまざまな技能をもち、専門的訓練を受けていること、子どもの読み書き能力について誕生から3歳までを通した研究の知識を有すること、養育への姿勢、質の高い児童図書に精通していること、乳幼児同士の社会的交流について独創的な取り組みができること、この年齢層の子どもたちとその親や保育者にとって最良の環境をつくるための企画力とコミュニケーション能力を有することなどである。

障害のある利用者のために図書館は専任の図書館員を置き、その要望に応えるサービスを提供する必要がある。

職員は異文化に対応できる技能・能力が必要である。職員・ボランティアの構成は地域における文化の多様性を反映すべきであって、図書館は多文化の背景をもつ親たちの見識を生かす必要がある。

経験豊富で有能な児童図書館員に劣らず、ボランティアも重要な役割を担っている。ボランティアは読み聞かせやストーリーテリングの訓練を受けてから図書館の内外で活動を行うとよい。

## 運営と評価

児童サービスに携わる者は、児童サービスについての理解と支援を確固としたものにするために、図書館の目標と長期計画に基づいた図書館全体の計画立案に参画することが重要である。奉仕対象のあらゆる層を考慮に入れて評価と改善を行うためには、信頼できる事業報告が必要となる。定期的に統計や聞き込み情報<sup>3</sup>を収集することは、説明責任を果たすことにもなり、また、立案や将来の運営上の意思決定に役立つ。確かな経験に基づく仕事は、継続

した職員の能力開発を可能とし、ひいては一般市民へのサービス向上につながっていく。

図書館がサービスする区域における文化的多様性を把握するためには、地域について統計をとることが不可欠である。

## 財源確保

主要な財源は、公立図書館を設置する責任を負う地方公共団体または政府機関が担うが、適切であれば、各地域において、子どもに対し無償の図書館サービスを提供する権限を有する非政府組織（NGO）または他の類似団体が提供する場合もある。

乳児用図書計画、全国読書計画など、主要な資金提供団体だけでは全面的な支援が困難な付加的なサービスを行うためには、補助的な財政支援は歓迎すべきであり、求めるべきであろう。

---

<sup>3</sup> 聞き込み情報とは、口頭あるいは記録にとどめないことを条件に非公式に収集したうわさ、証拠情報を指す。

## 第3節

### チェックリスト

このチェックリストを評価ツールとして用いるに際し、最上の結果を得るために各チェックボックスに、貴図書館の進捗状況に合致する年月を記載してください。

例：設問2の「乳児と幼児へのサービスを図書館の任務に含めること」について仮に2007年現在で貴図書館が「未検討」であれば、未検討欄に「2007」と記入。

乳幼児、両親、家族、保育者やごく幼い子どもたちの世話をする人々に対するサービスを行うために、すべての図書館は以下の項目を実施する。

1. 大人へのサービスと同等かつ重要なサービスとして、質の高い児童サービスを提供し、初期の教育、家庭教育、生涯学習の支援に努めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中
例：2007			

2. 乳児（生後12か月まで）と幼児（生後12か月から3歳まで）へのサービスを図書館の任務に含めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

3. 図書館カードや特典がたやすく得られるようにすること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

4. 利用者が独力で図書館へ来られるように、文字と絵文字を用いた目立つ案内表示をすること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

5. 移動図書館や出張サービスも含むすべてのサービスを行う場所で、乳幼児用資料に特化した場を確保すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

6. 図書館利用に際し、乳母車、折りたたみ式ベビーカー、車椅子、歩行器などが通行できるようにすること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

7. 「未来の読者を育てる」という目標に資するような、乳幼児用資料を選択し、購入すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

8. 発達や学習の初期段階において助けとなる、快適かつ安全で居心地がよい環境を用意すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

9. 年齢にふさわしい、おもちゃ・印刷物・マルチメディア・情報機器や周辺機器など、さまざまな形態の、豊富な資料を用意すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

10. 能力にかかわらず誰にでも利用可能な資料やサービスを用意すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

11. プログラムを提供するだけでなく、レファレンスや読書案内ができる職員を確保すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

12. 職員が最新の教育を受ける機会や研修プログラムを保証すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

13. 資料を入手する際やサービスを計画する際には、図書館利用者の多様な言語と文化的要求を把握して取り組むこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

14. 年齢にふさわしいプログラムや活動を、利用者の多様なスケジュールに合わせて日に複数回、週に数日の割で実施すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

15. 地域社会の人々の注意を引くために、図書館サービスについての情報を載せたちらしを地域にくまなく配布すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

16. 地域社会における最も若い住民のために最高の施設、サービス、機会を提供できるよう、地域団体や機関と協力関係を築くこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

17. しつけや幼稚園への入園準備など、興味あるさまざまなテーマについて理解を深め、知識を広げるために、報告者や講師を招くこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

18. 家族や保育者たちが、図書館を学習や楽しみのためによく足を運ぶ場所と捉えるように働きかけること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

19. 公共図書館が豊かで居心地がよい地域社会の財産として価値があることを、ウェブサイトや口伝えなどのさまざまな方法を通じてその地域社会の言語で広報を行うこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

20. 両親や保育者に自信や問題解決能力が身につくように、気軽に参加できる集いや話し合いを勧めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

21. 多様な文化的背景を持ったすべての利用者の要求に応えるために、地域の住民構成を反映した、有能かつ臨機応変に対応できる文化的に多様な職員の雇用に力を注ぐこと。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中



22. 社会全体に対して優れたサービスを保証するために、職員の責務を規定する適切な評価ツールや基準をもち、必要な専門的人材育成の機会を提供すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

23. 公共図書館の利用が無料であるために、適切な主財源の確保に努めること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

24. 世界の優良事例に遅れをとることなく、優れた図書館となることに役立つ新しいアイデアがあれば、これを適用すること。

図書館は、現在どの段階ですか？			
未検討	計画中	実施中	達成・評価中

## 第4節

### 優れた事例

---

#### (1) アメリカ図書館協会

アメリカ図書館協会の2部門(公立図書館委員会と児童サービス委員会)は、共同して、両親が子どもの最初の先生として重要な役目が果たせるように、効果的なツールを備えて、両親および保育者対象の連続ワークショップを展開した。乳児期の初期段階での識字と脳の発達に関する調査研究をもとに、「子どもはみんな図書館で本を読むことを求めている」という新企画に着手した。この企画の目的は、長期間にわたる教育分野でのひとつの機関として公立図書館をしっかりと位置づけることにある。多くの自治体において、図書館は、両親が無料で行事・催しに参加したり、おもちゃや本を借りたりできる数少ない場のひとつで、乳幼児連れでも歓迎される場所なのである。

[www.ala.org/alsc](http://www.ala.org/alsc)

#### (2) アメリカの公立図書館

アメリカ合衆国の公立図書館は、「学ぶ準備OK」という新企画を推進するために、地域の公共テレビ放送局と共同事業を展開している。合衆国教育省から資金を得たこの企画は、2歳以上の子どもたちを読書好きにすることを目的とし、テレビや他の電子機器を使った計画案を策定している。「ライオンさんといっしょ」や「セサミストリート」など現在子どもに人気のテレビ番組などとも協力関係にある。2007年と2008年には「言葉の世界」、「マーサのお話の時間」、「エレクトリック・カンパニー」などの新番組が始まった。テレビは子どもの生活において大きな部分を占めている。上記の企画は、幼い子どもたちと両親・保育者が質のよい本を選ぶための手がかりとなっている。

[www.pbs.org/readtolearn](http://www.pbs.org/readtolearn)

### (3) クロアチア・メドヴェシュチャク公立図書館

クロアチアのザグレブ市立図書館のひとつであるメドヴェシュチャク公立図書館は、該当地域を対象に各種のプログラムを毎日提供している。その内訳は、乳幼児と両親対象にストーリーテリングなどのお話を週5回、おもちゃの貸出を毎日、3歳以下の子ども向けに大型絵本の収集、両親向けの教育書と教育雑誌の収集、心理学者・教育の専門家・医師などによるワークショップや講演会、さらには子どもと両親一緒のさまざまな活動などである。乳児とその両親を対象にした企画が始まったのは、1993年のことであった。

[www.knjizmed.hr](http://www.knjizmed.hr)

### (4) クロアチア図書館協会

クロアチア図書館協会の児童部門は、「乳幼児時期からの読み聞かせ」という企画を3年続けて実施している。地元の公立図書館の児童図書館員が、デイケアセンターを訪問し、スタッフや両親に、初期段階での識字教育、生後間もない時期から赤ちゃんに本を読むことの重要性、読み聞かせの方法、質の高い絵本を子どもに手渡すことなどについて話をする。情報と教育資料が教育の専門家と両親に提供され、またオンライン上でも入手できるようになっている。

[http://www.hkdrustvo.hr/hr/strucna\\_tijela/17/publikacije/](http://www.hkdrustvo.hr/hr/strucna_tijela/17/publikacije/)

### (5) デンマーク視覚障害者図書館

デンマークには、「図書館には冒険がいっぱい」という企画が、公立図書館とデンマーク視覚障害者図書館との共同で行われている。障害がある子どもとその家族は、図書館に招待され、障害のある子どもたち向けの図書館サービスと資料等を知り、必要に応じた特別企画を体験する。

[www.dbb.dk](http://www.dbb.dk)

## (6) ロシア国立児童図書館①

「未来の読者たちへの教育」は、ロシア国立児童図書館が行っている作家が企画したプログラムで、ペルミ、アナディリならびにロシア国内の町々で実施されている。その内容は、毎週図書館で子どもを対象に集会を開き、ゲームや、赤ちゃん向けのはじめての識字教育などを行っている。子どもたちは詩やお話を聞いて、内容について話しあったりする。集会では「秋について」とか「兄弟姉妹」「おもちゃについての詩」などさまざまなテーマが取り上げられる。このプログラムに参加する作家たちは、L. ヴィゴツキー、F. ダルトの考えをもとにして企画を立てている。作家たちはまた、雑誌に関連記事を書いて、関係者たちと経験を共有できるようにしている。

## (7) ロシア国立児童図書館②

6か月から2歳までの乳幼児が、図書館や家庭で描いた絵の企画展が、「絵画が赤ちゃんの想像性を育てる」と題して、ロシア国立児童図書館によって計画された。これは、「国際児童絵画美術館」と「子どもの家No.29」との共同企画である。絵筆を使う子どももいたが、ほとんどの子どもは、手や手のひら、あるいは体のいろいろな部分を使って絵を描いた。色の組み合わせや表現方法がとてもすばらしかったので、図書館を訪れた多くの人々は説明文を読むまでは、子どもたちが描いた絵を見て、プロの現代画家の作品だと思ったようだ。描かれた作品だけでなく、作品の創作過程の写真も合わせて展示された。この企画展に参加した子どもたち全員に、両親を通じて賞状が贈呈されたが、子どもたちは自分たちが人生で初めての賞をもらったことに後に気づくことになるだろう。

## (8) スペイン・カタロニア地方の公立図書館

スペイン・カタロニア地方の公立図書館数館で、「読むために生まれてきた」という企画が実施された。この企画は、人生のごく初期段階で、読書への興味を促すことを目的としていて、本を仲立ちに、子どもと大人が心を通

わせあい、さらに、本と児童文学にかかわっている人、両親、小児科医、看護師、図書館員、教育専門家、ならびにその他の専門家など幼い子どもを保護する立場にある社会全体を巻き込むものでもある。期間は2005年から2007年までの3年間で、該当地域に住む、2005年以降に生まれたすべての子どもを対象にしている。

<http://www.nuscatsperllegir.org/>

### (9) スペイン・バルセロナ図書館

スペインのバルセロナ図書館は、「新しく親になった人たち対象の読書クラブ」を運営し、子どもを授かって間もない母親・父親に、読書の楽しみと、親になることについての本を紹介する時間を設けている。具体的には、子どもの文学がごく幼い子どもにも与える意味、子どもへの対応、伝統的な言葉遊びと遊び歌の再発見を親に知らせる、などを実施している。この活動は、バルセロナネットワークのうちの3館で行われている。

### (10) スペイン・バルセロナ州立図書館ネットワーク

「赤ちゃんへの読み聞かせ」：スペイン・カタロニア地方のバルセロナ州立図書館ネットワークに属している多くの図書館は、乳幼児を対象とした部署を持ち、対象年齢にふさわしい資料を備え、ごく幼い時期から読書に興味をいだかせることを目的に活動している。このサービスに参加する場合、常に保護者が子どもとともに参加することになっている。また、乳幼児の問題をよりよく理解するための本や、手助けとなる資料のリストもウェブページ上に載っている。

<http://www.diba.es/info/llistaguies.asp>

<http://www.diba.es/biblioteques/guia/serveis//llistaserveis.asp?servei=6>

### (11) スウェーデン公立図書館

ほとんどのスウェーデン公立図書館には、障害のある子どもたち用の書棚

が設置されている。この書棚は「りんごの書棚」と名づけられ、棚にりんごのマークが貼ってある。この棚にはピクトグラムやブリスシンボル<sup>(注)</sup>で書かれた本、絵文字のビデオブックが聴覚障害児用に、視覚障害児用には「さわる絵本」が置いてある。「さわる絵本」は、スウェーデン図書館録音図書・点字図書部門（TPB）が作成している。「りんごの書棚」を幼児向けの教育玩具の展示用に使っている図書館もある。スウェーデン国立文化評議会は、各図書館の「りんごの書棚」を発展させるためのガイドラインを発行している。

(注) チャールズ・K. ブリスによって考案された表意文字。

## (12) デンマーク・ノアプロ公立図書館

デンマーク・コペンハーゲンのノアプロ公立図書館は、2004年9月、市内の多文化地域に住む子どもと親を対象に、言語能力獲得・向上をめざした活動を開始した。図書館は、誕生から入学までの間に4回、個別に会ったり、家庭を訪問したりして、言葉と会話力向上のための共通理解を醸成しようと努力している。図書館利用が増加したことが、この企画の最大の効果であった。この企画は、多言語の家族と接することで、グループ間のチームワークにも広がりが見え、アイデアを発展させ、新しい事例を生み出すことができた。この図書管理局の企画は、初年度は図書館振興委員会基金から援助を得ていたが、今後は図書館独自の資金や統合省からの資金援助で図書館サービスの一部として継続していくことになるだろう。

[www.sprogporten.dk](http://www.sprogporten.dk)

## (13) オランダの公立図書館

「本の楽しみ」は、オランダの公立図書館で行われている読書推進と言語力向上をめざした企画である。オランダ人であれ移民であれ、0歳から6歳の子どものもつ教育水準の低い家族を対象にしている。地域ネットワークに属する子どものためのヘルスケアセンター、デイケアセンター、幼稚園、小

学校、公立図書館が共同して事業にあたっている。この事業に従事する人たちは、言語力獲得のための特別メソッド（「国語方針」VVE）を図書館員から教えてもらう。0-2歳、2-4歳、4-6歳の3グループそれぞれにふさわしい活動が、特別に開発された資料を使って、児童センターや家庭で行われる。選択された絵本が幼稚園とデイケアセンターに配備され、親たちは定期的に借りることができる。親たちは、読み聞かせ・絵本や歌の使い方を一步一步学んでいく。コーヒーミーティングと名づけられたこれらのワークショップは、図書館が主催し、親たちは毎月新しい絵本や指人形やちらしなどをもらえる。

[www.boekenpret.nl](http://www.boekenpret.nl)

#### (14) カナダ・ケベック州立図書館

「赤ちゃんのための絵本」は、新しく親になった人たちに、生まれた子どもの利用登録を図書館であることを勧めるというカナダ・ケベック州のすべての公立図書館で行われている企画である。登録時には乳幼児向け絵本、親向けの雑誌と専門家の助言などが入ったギフトバッグがもらえる。この企画は大成功をおさめ、若い家族の図書館利用を促進している。

#### (15) 若者との対話：カナダ・ケベック州

カナダ・ケベック州で「若者との対話」が始めた「トゥプティリトゥ」(Toup'tilitou) は、0-5歳の子どもたちに読むこと・書くことに関心を向けさせる企画である。これは、「遊びと発見の喜びに焦点をあてる」「生まれたときから本に接するよう勧める」「子どもが本と遊ぶ環境を確立し、読書が好きになるような環境を創る」などを基本としている。「トゥプティリトゥ」は、子どもの文学や本についてのワークショップ、受賞作品の紹介をするほか、図書館での行事やお話会のお知らせ、ブックフェアや文学関連行事のお知らせをしている。

## (16) カナダ・ハミルトン公立図書館

カナダ・オンタリオ州のハミルトン公立図書館は、若い家族向けに、気楽な会合の場や機会など数多くの学ぶ環境を提供している。図書館のプレイコーナーにはおもちゃがたくさん置いてあって、初期段階の識字推進、乗り物のしくみの理解、認識力の発達等に効果を発揮している。すべての分館は、親たちに子どもの成長と発達についての情報を知らせる資料を用意している。図書館の主な行事としては、「誕生から始まる赤ちゃんへの読み聞かせ」を毎週行っている。アメリカ図書館協会が始めた「読む準備OK！ あなたの図書館で」という活動も、上記「読み聞かせ」に組み込まれている。この初期段階での識字教育と総合的取り組みは、次の段階である「読む力の獲得」に必要な6つの能力を使ってよい本を共有するという活動へと切れ目なく続いている。ハミルトンの多様な地域社会にサービスを提供するために、図書館は、地域のお母さんと赤ちゃんのグループに、わらべうた・お話・歌遊びを実施している。子どもを授かった親はすべて、病院にいるときに看護師の訪問を受ける。この訪問のときに、親たちは「あなたの赤ちゃんに読み聞かせを」と名づけられた、本の入ったバッグをもらうことができる。この中には、発達と健康についての情報とともに、特別の招待状が入っていて、図書館に行って赤ちゃんの名前で登録すると、ボードブックがもらえることになっている。

<http://www.myhamilton.ca/myhamilton/LibraryServices/>

## (17) 英国・ブックスタート

国立慈善ブックトラストにより運営されている英国のブックスタートは、赤ちゃんに本をプレゼントするという世界で初めての事業で、1992年に300人の赤ちゃんを対象に始まった。ブックスタート組合報告2003によれば、2001年までに参加した赤ちゃんの数は100万人以上になった。この企画は、公立図書館、教育局、健康局など多数の部局が協力して行い、すべての赤ちゃんに複数の本を、親や保護者には手引書を配布するというもので、特に社



会的に孤立した人々を対象としている。ブックスタート・パックは、7-9 か月健診時に手渡される。パックの中身は、キャンバス地のバッグ、ボードブック2冊、わらべうたの本1冊、よい本のリストが載った案内書、図書館の情報と利用の勧めなどである。歌遊び、お話会など気軽に参加できるプログラムのお知らせも入っている。イギリスでは2006年以後、18か月の幼児向けのブックスタートプラスと、3歳児向けの「私のブックスタート宝箱」が新たに始まっている。

[www.bookstart.co.uk](http://www.bookstart.co.uk)

### (18) 韓国・ブックスタート

「ブックスタート・キャンペーン」は2003年4月に930人の赤ちゃんを対象に、モデル事業として、韓国ソウルのチュンナン保健センターで始まった。「ブックスタート」は1992年にイギリスで始まった事業で、以来世界10か国以上に広まっていった。この事業を紹介するにあたって、「韓国ブックスタート委員会」という私立の組織が設立され、イギリスと日本の事例を参考に議論を重ねてきた。

2004年8月、地方自治体と公立図書館が協力して、ブックスタート・キャンペーンが始まった。これには、ソウルのチュンナン区、インチョンのヨンス区、ソウルのチュン区、スンチョン、ソウルのソチョ区、チェチョン、ソクチョなどが参加している。ブックスタート・キャンペーンは当初、地域の保健センターで、1歳以下の赤ちゃんに絵本をプレゼントすることから始まったが、時間の経過とともに、地方の公立図書館も参加するようになり、読書計画と協働するようになってきている。

### (19) 韓国・ワークショップ

韓国のソウル読書教育研究会(SSCLL)は、ソウル市が実施している「女性のための助成金」をもとに「すばらしい語り手となるおばあちゃんのためのワークショッププロジェクト」を企画・開催した。このワークショップ第

3期は2004年に開始された。

このワークショップで、おばあちゃんたちはストーリーテリング、童謡、わらべうたなどの研修を受け、さまざまな機会に図書館、幼稚園、学校や社会教育センターなどでボランティアとして読み聞かせ等を行っている。おばあちゃん世代と孫世代が昔話、絵本や物語などを通じて一緒に遊ぶことにより、コミュニケーションが生まれる。図書館などのお話会にボランティアとして物語を語ることで、おばあちゃんたちは子どもに対する理解を深めることができる。こういった背景のもとに、多くの図書館では、児童サービスプログラム、特に親子のお話会などにサポーターやボランティアの力を借りるところが多くなっている。

## (20) ノルウェー・バルム図書館

ノルウェー・バルム市立図書館が率先して取り組んだプロジェクト「保健医療センタープロジェクト」が1991年に始まった。このプロジェクトの目標はアウトリーチ活動で、子どもの言語発達にとって児童書がどれほど大切かということを知ってもらい取り組みである。その対象はバルム市にある保健医療センターの利用者たち——出産を控えた親、幼児をもつ親、少数民族の親、青少年、妊産婦など——で、2002年に数館の図書館と保健医療センターが協議し、この取り組みを行政レベルの恒久的協定のもとに継続していくことを決定した。

保健医療センターと図書館の連携活動により、9-10か月の乳幼児の養育者にどのような図書館サービスが利用できるのか広く知ってもらえるようになった。また、その年齢以降に行われる定期健診などでさらに認識の強化を図っている。保健医療センターの職員は、9-10か月の乳児および2-4歳の幼児をもつ親に対して図書館のパンフレットや資料を定期的に配布している。このようにしてセンターの職員が図書館サービスの一端を担うことができるほか、子どもに読み聞かせることの重要性について親たちに再認識してもらうことができる。

## (21) 子ども移動図書館（ノルウェー、フィンランド、英国）

子ども移動図書館にはさまざまな形があり、世界中の国々で子どもを対象とした図書館サービスを提供している。その中でも特に注目すべきものは以下の3つの活動である。

ノルウェーの「ソリア・モリア」は、鮮やかな色彩のバンを使い、操り人形、お化けの人形やストーリーテリングの椅子などを載せて、学校や保育園を訪問する。このバンは当然のことながら、IFLA2005大会で装い賞を受賞した。このバンには精力的に活動する図書館員が乗っていて、人形芝居をしたり、お化けに扮して怪談話をしたり、ベリーダンスを踊ってみせたりする。これは他に類をみないアウトリーチサービスである。

フィンランド・タンペレの「ネッティ・ニッセ」は、2両の車を使った斬新な移動図書館サービスである。誰でも利用できるが、児童サービスに力点が置かれ、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）などのテクノロジーを大々的に取り入れている。この独創的な車はベンディ・バス（連結バス）で後部は児童専用となっている。

英国のバーミンガム市立図書館には人気の高い子ども用の移動図書館車がある。この車で行う図書館サービスは、バーミンガムの中でサービスの行き届かない地域を対象に行っている。すでに15年目になるが、いまだに継続中で、ノルウェーでのサービスと同様に熱心な職員がいて、利用者との交流に力を入れている。このサービスは学校、保育園、コミュニティセンターなどを訪問し、コミュニティで特別な行事があるときはそこにも出向く。この車は「英国移動図書館大会」（UK Mobilemeet）の賞を2回受賞している。

## (22) アフリカの出版社

アフリカでは公立図書館における乳幼児向けの読書に適した資料が不足しているのが現状だが、この問題に取り組んでいる出版社はいくつかある。例えば、象牙海岸のヌーベル・エディション・イヴォワリエンヌ社（Nouvelles Editions Ivoiriennes）やベナンのリュイッソウ・ダフリック社（Ruisseaux d'

Afrique)などは乳幼児向けの本をいくつか出版している。その中でも独創的なのは「布の本」である。マリでつくられ印刷された布製のこれらの本は、マリの公立図書館で所蔵されていて、幼児が「読む」こともさわることもできる。「マリラ」という団体は最初に子どもの名前を載せたマリ語のアルファベットを学ぶ本をまず出版し、次に絵を添えた言葉の本をバンバラ語で出した(CEBA出版)。そして最近、3冊目の本となる『1, 2, 3』という数を覚えるための布製の本を出版した。野菜の絵にマリで使われている4つの言語でその名前が書かれている。この本はフランスでも販売されていて、その収益によりティンブクトゥ地域に2つの村立図書館ができることになっている。

<http://www.malira.org/>

### (23) 日本・浦安市立図書館

日本の東京近郊にある浦安市立図書館では、「赤ちゃんと楽しむわらべうたの会」を毎月1回、6か月～1歳2か月の乳幼児と保護者、ならびに1歳3か月以上の乳幼児と保護者を対象に、わらべうたと絵本の読み聞かせを行っている。また、司書が市内すべての保育園や一部の公立の幼稚園に出向き、同様のサービスを行っている。「ブックスタート絵本講座」では、毎月1回、受講者の住居の地域別に、5か月の乳児と保護者を対象に実施している。これは、市役所と図書館とで連携して行っている事業である。

日本には全部で1,840の自治体があるが、ブックスタート事業は、597の自治体で行われている。多くの自治体では、ブックスタートは保健所での赤ちゃんの健康診断のときに図書館員が出向いて本を紹介し、絵本をプレゼントしているが、浦安市では、親子に図書館に来てもらって実施している。他の自治体の公立図書館ではボランティア等と連携してサービスを行うことが多いが、すべて司書が講師等をしていることがこの図書館の乳幼児サービスの特徴である。

## (24) 日本・大阪府立中央図書館

大阪府立図書館は、東京に次いで日本で2番目に人口が多い<sup>(注)</sup>大阪府の図書館である。この図書館の「おはなしゆりかご」は、事前に登録した5か月から1歳までと1歳から2歳3か月までの親子15組程度を対象にして、親子のふれあい遊びや歌、絵本を楽しむお話会である。年3回3か月ずつのコースで毎月2回実施される。また、「親と子のひろば たんぽぽ」という2歳までの親子を対象に、絵本、手遊び、わらべうた、リズム遊びなどを楽しむ会を毎月2回行っている。こちらは当日でも自由に参加できる。この上のクラスとして、3歳から6歳までの親子を対象とした「おはなしぶらんこ」という絵本を楽しむ会もある。これらの会は保育士の資格ももつベテランのボランティアが中心となり、わらべうたや本を仲立ちとしてどのように幼い子どもと接したらよいかを学びながら、司書も参加し、両方で連携しながら実施している。日本では、1980年代から「保健所文庫」が開かれるなどの取組みはみられたが、2000年の子ども読書年にイギリスのブックスタートが紹介され、2001年の「子ども読書活動推進法」の制定などの「追い風」を受けて、一挙に乳幼児サービスへの関心が高まった。

(注) 2005年国勢調査による。

## (25) キューバ

「赤ちゃんの館」は、幼い子どもたちとその家族に、新しい場やサービスを展開するためにここ10年行われているキューバでの公立図書館計画の名称である。子どもには誰でも創造力があるということを、両親が理解することが最も重要である。図書館員は、ストーリーテリングやごっこ遊び、そして芸術的な素材を用いた創造的な活動をさせることによって、子どもの発達には創造的な表現力が重要であり、創造的な活動をするための機会を与えることが必要だと両親に理解してもらうようにしている。図書館員は、両親によい本の選び方や、将来の読者である子どもたちにどのように読み聞かせをしたらよいかを教えている。

## (26) ドイツ・ビュルツブルグ公立図書館

「赤ちゃんは本が大好き」は、ドイツのビュルツブルグ公立図書館のプログラムである。毎週このプログラムを楽しむために、母親が乳児を連れて公立図書館を訪れる。図書館では、生まれたばかりの子どもから3歳未満の子どもたちにストーリーテリングをしたり、子どもたちと一緒に遊んだり歌ったりする。

<http://www.stadtbuecherei-wuerzburg.de>

## (27) フランス・パリの児童図書館員

パリ（フランス）の児童図書館員たちは、芸術家アリックス・ロメロと「物語の木」を思いついた。「物語の木」は約1.5mの木製の木で、10個のプラスチックの箱が小さな家のように納められている。それぞれの箱の中には、幼児向けのお話に対応する舞台、おもちゃの人形や小物が入っている。人形や小物は、取り出して動かして遊ぶことができる。また、ヘレン・オクセンバリー、ジョン・バーニンガム、マリー・ワップ、ミッシェル・ゲなどの作家の作品や『三びきのくま』などが入っている。図書館員ははじめに本の挿絵や人形を見せながら、1-3歳の子どもたちの小グループとその親や保育者たちに読み聞かせをする。子どもたちは、いつも生き生きと描かれた挿絵に見入っている。また子どもたちは、お話を聞いた後で、ひとりひとりが本を手渡され、他の人形や小物を手に取ることができる。その結果、子どもたちは本に関心を向けるようになる。この企画は、読み継がれた物語にまだ馴染みのない子どもたちと大人のために、本や物語への導入としてよい方法である。

## (28) ドイツ・ダニッシュ図書館

「赤ちゃんのための図書館2.0」は、フレンスブルグ（ドイツ）にあるダニ

ッシュ図書館における新しい活動である。IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会常任委員会での話し合いに触発されて2007年に始められた。このプログラムは毎週水曜日に2時間行われる。ドイツにおいては、最低3年の育児休暇中の母親が、情報を交換したり、知り合いになったりするのための場所がほしいという大きな要求がある。乳児用のおもちゃ付きの手押し車と、ごく幼い子のために厚いカーペットが加わった以外は、日常の図書館活動で用いるものと同じものが使われている。大人にはコーヒー、子どもにはジュースが用意されている。このプログラムには、一緒に歌を歌ったり、保育に関するウェブサイトを見たり、ボードゲームをしたりするほか、大人のための雑誌や新しい小説、乳児のための音楽CD、家族で出かけられる場所の紹介がある。ブログは計画を立てるためのツールとして使われる。それぞれの紹介に応じて最新情報が得られる。幼稚園の保護者会において、簡単な紹介からもっと詳しい紹介へとつながるかもしれない。

<http://www.babybiblioteket.blogspot.com/>

## (29) イタリアの国家計画

「贈り物を通じて読書への愛を学ぶ：大人が物語を読むということ」は、1999年以来、小児科文化協会とイタリアの図書館協会と子ども保健センターによって促進されてきたイタリアの国家計画の目標である。この計画の目的は、生まれて間もない子どもと一緒に、家庭において音読や読み聞かせをすることによって、早期の読み書き能力を促進させることである。これは、乳児に健康と快適な生活環境を与え、言語能力の発達を促進し、親子の絆を築くための機会である。小児科医は、子どもが6か月から6歳までの間ずっと、読み聞かせの重要性について親に助言を与えるよう訓練されている。可能な限り、訪れるたびに新しい本が子どもに与えられ、両親は図書館を利用するように勧められる。

イタリア国内の多くの図書館は、乳児の初めての読書体験を支援したり、他のさまざまな活動を通して子育てに関わりながら、本の収集や乳児と親た

ちへの働きかけなどのサービスを強化している。ブresciaで刊行された「初めて出会う本のために」は、読み聞かせや、乳児の発達に沿った本を与えることについて説明している。

[http://www3.provincia.brescia.it/biblioteche/bibliografiempl/primo\\_libro.pdf](http://www3.provincia.brescia.it/biblioteche/bibliografiempl/primo_libro.pdf)

<http://www.natiperleggere.it/>

### (30) ドイツ・ブリロン公立図書館

ドイツのブリロン公立図書館におけるブックスタートプログラムは、2006年1月に始まった。地域の病院や小児科医の協力のもと、どの母親も子どもたちに読書の喜びを触発するための、「成長する子どものための読書の手引き」と呼ばれる本の無料パックを2回受け取る。はじめてのパックは、生まれて間もなく病院の看護婦から渡される。2つ目のパックはその子が2歳になったとき、小児科医によって渡される。ドイツでは、150以上の地域社会において、「読書の手引き」が幼いうちから本に親しむという考えを奨励している。「読書の手引き」は、10歳に達するまでの子どもの物差しとなる。それは公共の場、たとえば病院の先生や子どものための言語治療士の待合室や幼稚園、小学校や公立図書館などに置いてある。「読書の手引き」は、子どもの年齢に応じて、親たちがどのようにして自分の子どもたちに対して早期の読み書き能力を支援することができるのかについて、基本的なアドバイスを与えている。小冊子には推薦図書も掲載されている。

<http://www.leselatte.de/>

<http://www.buecherbabys.de/>

<http://www.stadtbibliothek-brilon.de/>

### (31) アメリカにおける公立図書館

アメリカの公立図書館の子育てや家庭での識字教育コーナーには、親としての役割を手助けする本のコレクションがあり、発達段階における能力について記述された本が置いてある。蔵書には、家庭において、乳児誕生に伴う



新しい暮らし方、要求・ストレスに対し、どうしたらうまく対応できるかという助言が含まれている。快適なソファなどは、育児雑誌を見たり、地域の診療所の予定を調べるための資料をチェックしたりするくつろぎの時間をもたらし、同じ年齢の子どもの親や保育者たち、あるいはもう授乳が必要でなくなった子どもの親たちとも一緒に話をする場にもなっている。このような配慮の行き届いた環境があれば、親や保育者たちにとっては地域への信頼が生まれ、すべての子どもに幸福を与えようとする積極的な姿勢が築かれる。

## 日本語版あとがき

昨年6月に児童青少年委員会内に翻訳チームを発足し、「乳幼児への図書館サービスガイドライン」の翻訳作業にとりかかってまいりましたが、委員会で数度訳文の検討を重ねた結果、このたび日本図書館協会の出版物として発行することになりました。

乳幼児サービスは、世界各国の図書館でここ10年来積極的に取り組んできた成果のあらわれか優れた事例も多く、日本の図書館関係者の皆様にも参考になる活動を紹介することができて、嬉しく思っています。

ただ、委員会での検討の際、第2節の「乳幼児への図書館サービスの目標」の中の“マルチメディアを扱う能力やテクノロジーを使う力を早い時期から身につける機会を与える”という箇所について、日本の現状を考えると乳幼児サービスのガイドラインとして盛り込むのは適当とは思えないという意見が多く、委員から寄せられました。しかし、IFLA発行のガイドラインの中身を変更することはできませんので、翻訳は原文に即して行い、あとがきで児童青少年委員会の意見を付記することといたしました。今後皆様が乳幼児サービスを実施なさる際の検討課題としていただけたらと考えております。

ご一読のうえ、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。

2009年5月

翻訳チーム：石渡裕子・佐藤尚子・杉浦弘美・矢野悦子・依田和子

## IFLA 乳幼児への図書館サービスガイドライン

---

2009年6月30日 初版第1刷発行©

**編者** 国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会

**翻訳者** 社団法人 日本図書館協会児童青少年委員会

**発行者** 社団法人 日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14

Tel 03-3523-0811 (代) Fax 03-3523-0841

**印刷所** (株)パンオフィス

JLA200906 Printed in Japan

ISBN978-4-8204-0901-4

本文の用紙は中性紙を使用しています。

※翻訳・刊行については国際図書館連盟（IFLA）の許諾を得ています。

